

## 歴史を探究することの意味とは何か？

みなさんは（たぶん）小学校から高校まで、世界の歴史や日本の歴史を学んできました。でも、歴史の勉強をしていて、ふと疑問に思ったことはありませんか。

「そもそも、歴史を学ぶ必要なんてあるのだろうか？」（Q1）

これは、とても大切な問いだと思います。しかしなかなか答えるのが難しい問いでもあります。では、この問いを以下の問いと比較してみてください。

「そもそも、物理を学ぶ必要なんてあるのだろうか？」（Q2）

このような問いに対して、みなさんならどのように答えますか。様々な回答が可能だと思いますが、そのうちの一つは「私は将来科学者になるわけじゃないんだから、物理を学ぶ必要なんてないよ」という回答でしょう。しかしながら（この回答の是非はとりあえずおいておくとして）、このような回答をする人は少なくとも、科学者は物理を学ぶ（研究する）必要はあると考えているわけです。では、なぜ科学者は物理を研究する必要があるのでしょうか。つまり、Q2には二つの問題が含まれていて、

一つ目は、そもそも「この私」が物理を学ぶ必要があるのか（Q2-1）、  
という問題です。

二つ目は、そもそも一般的に物理を研究する必要があるのか（Q2-2）、  
という問題です。

同じように歴史に関するQ1にも二つの問題が含まれています。

一つ目は、そもそも「この私」が歴史を学ぶ必要があるのか（Q1-1）、  
という問題です。

二つ目は、そもそも一般的に歴史を研究する必要があるのか（Q1-2）、  
という問題です。

最初の問い（Q1とQ2）をこのように区分したときに、みなさんの答えはどうなるのでしょうか。とくにQ2-2とQ1-2を比べたとき、物理はなんとなく研究の必要がありそうな気がしますが、歴史に関しては微妙な気がしてきませんか？そこで、今回は歴史の方に焦点を合わせて、以上のQ1-1とQ1-2に教えてください。

Q1-1、あなたが歴史を学ぶ必要はあると思いますか？ < Yes No >

--

Q1-2、一般的に歴史を研究する必要があると思いますか？ < Yes No >

--

社会（歴史）を哲学する  
第一回問題 集計結果

Q1-1、あなたが歴史を学ぶ必要はあると思いますか？

Q1-2、一般的に歴史を研究する必要があると思いますか？

- ①<Yes/Yes 派> 42人
- ②<Yes/No 派> 4人
- ③<No/Yes 派> 6人
- ④<No/No 派> 5人（6人）

(I)

Q1-1→Yes 46人

- ・「人類の進歩は「記憶する」ことによって急速に発展したと思うのだが、「記憶する」ということは大きく捉えれば「歴史を学ぶ」ということとあまり変わらないように感じる。」
- ・「それぞれの時代の背景や個人の境遇は違っても、同じ人間としてどのような思いをもって、どのような行動をしたかを知ることは生きる上でプラスになると思うから」
- ・「私がこの地球に存在しているのは過去に様々な経緯があつてのことだと思う。私が歴史について何も知らないとすると、私自身や日本、ひいては地球そのものがどうして存在しているのかが分からないような気がして非常に怖い。」
- ・「特に近現代史は現在の国際情勢を理解する上で必要な知識であるから、学ぶ必要があると思う」
- ・「前例を知ることで今後のことも少しは予測して問題を回避することができると思う」
- ・「歴史を学ぶことによって今現在生きている自分を取りまく文化や制度やことわりを知ることができて面白いから」

Q1-1→No 12人

- ・「年表か単語を覚えるだけの歴史ならこれ以上必要ない」
- ・「もともと学問は自分が好きでやりたいからやるものなので、(私は歴史をやりたいとは思わないので) 必要ないと思う。」
- ・「私は理系の人間なので、歴史の分野を学ぶ必要はないと思います。パソコンのプログラムを作成するのに歴史上の人物の名前など必要ないからです。」

(II)

Q1-2→Yes 48人

<多数意見>

「過去の歴史を知ることによって、同じ過ちを繰り返さないですむから」

- ・「歴史を知ることによってわれわれは本当に進歩することができる気がするから。」
- ・「マニアのような研究よりも、全体を見通して「日本」と「日本人」というものを深く考えてみようとする研究は必要だと思う」
- ・「様々な事象に対する物証、記述等はニセモノである場合もあるし、記述に関しては至極主観的なものもあるだろうから、多くの情報を集めて真相を知る必要がある」
- ・「歴史は経験の積み重ねであり、近い未来を予想するのに必要であると思う」

Q1-2→No 10人

- ・「物理の研究は新しい発見をすれば、それが今や未来の生活の進歩に役立つが、歴史の研究は新しい発見をしても過去の出来事なので、これからの生活に役立つことはないと思うから」
- ・「先人の知恵も大切なのだろうけど、歴史の研究はマニアの興味ありきで成り立っている気がする。一般的に未来により良い形につながる可能性は低いと思う。」

## 「社会」を哲学する授業全体の流れ

問1、「歴史について知る」ということはどのような営みなのか？

問2、「歴史を探究することの目的とは何か？」

問3、「歴史学は科学か？」

### 第一回 過去についての知識の特異性

問1、過去についての懐疑論

「ペリーが150年くらい前に日本にやってきた」

「5分前に世界が創られたのかもしれない」（5分前世界創造説）

→われわれは過去について知ることができない

懐疑論の説得力

→われわれが「現在の」証拠しかもっていない

パラレル：他人の心に対する懐疑論、外的世界についての懐疑論

少なくとも、われわれは過去の事実を「知覚する」ことはできない

「想起する過去」と「知覚する現在」との対比

想起は知覚された過去のコピーではない

「記憶像」⇔「過去そのもの」を比較することはできない

（カント：「現象」⇔「物自体」）

大森：「想起」⇔「過去自体」

→過去は想起から独立に客観的に存在するのではない

「想起過去説」

→過去はわれわれの語りによって制作

「言語的制作説」

⇒「過去に対する反実在論」

例)「信長は本能寺の変で死んだ」という事実

過去についての語りが社会的に公認される手続き

- ・人々の証言（記憶）の一致
- ・物的証拠との連続性

⇒クリア⇒「過去の真なる事実（真実）」

…過去はわれわれの認識から独立には存在しえない

（VS「過去に対する実在論」）

第二回 歴史的説明とは何か？

ヘンペルVSドレイ 論争

論点整理

	ヘンペル	ドレイ
①歴史的説明とは何か？	初期条件と普遍法則からの論理的帰結として、個別的出来事を導くこと。	行為者の動機や信念を行為と結びつけること。
②説明の妥当性根拠	法則の経験的テストによる確証	合理性の規準（行為と信念 or 動機が合理的に結び付けられているか否か）
③歴史学の「主な」目的	将来の事象の <u>予測</u>	歴史的人物の行為を <u>理解</u> すること
④歴史学の対象	（個別的）出来事	（行為者の）行為
⑤説明項の論理的身分	必要且つ十分条件	必要条件でも十分条件でもない
⑥統計的説明	高い確証性を論理的に与え得る	可能な説明のオルターナティブを排除できない
⑦ライルの傾向性による説明	被覆法則モデルの一種	傾向性言明は普遍法則ではない（？）
⑧合理化の問題	合理的でない行為を合理的に説明するのは「合理化」である	合理的でない行為は扱わない（？）
⑨故意でない行為	実際に考慮されない合理性は説明の役には立たない	実際に計算が生じているかどうかは問題ではない

Cf.

Dray, W. (1963), "The Historical Explanation of Action Reconsidered", in S. Hook (ed.) *Philosophy and History*, New York University Press, pp. 105-135.

Hempel, C. (1963), "Reasons and covering laws in historical explanation", in S. Hook (ed.) *Philosophy and History*, New York University Press, pp. 143-163.

<授業の流れ>

統一科学運動

すべての経験科学を唯一の理論言語（物理言語）によって統一しよう！

社会学（経済学）→心理学→生物学→化学→物理学

<方法論的一元論>

→歴史学への応用

ヘンペルの「包摂法則モデル（Covering-Law model）」

歴史的説明には暗黙のうちに一般法則が前提されている

例)「黒船が来航した（C）結果、明治維新（E）が引き起こされた」

暗黙の一般法則：「外圧は内政を変化させる」（L）

法則 L を媒介にした、初期条件 C と出来事 E の因果的説明

⇨物理的説明

\* 1 法則はテスト可能でなければならない (Cf. ポパー)

例)

「自由は自己展開する」 by ヘーゲル

「階級闘争の激化は革命を誘発する」 by マルクス

\* 2 厳密な法則は不可能→統計的法則

第三回 歴史の物語り論